

しゆしやうぎ だいにしやう さんげめつざい
修証義 第二章 懺悔滅罪

ぶつそあわれ あま こうだい じもん ひら お

仏祖憐みの余り広大の慈門を開き置けり、

こ いっさいしゆじやう しやうにゆう

ため

是れ一切衆生を証入せしめんが為なり、

にんでんたれ い

か さんじ あくごつぼう

人天誰か入らざらん、彼の三時の悪業報

かなら かん

いえど さんげ

ごと

おも

必ず感ずべしと雖も懺悔するが如きは重

てん

きやうじゆ

まためつざいしやうじやう

きを転じて軽受せしむ、又滅罪清浄なら

しか

じやうしん

もつげ

しむるなり。然あれば誠心を専らにして

ぜんぶつ

さんげ

いんも

ぜんぶつ

前仏に懺悔すべし、慙麼するとき前佛

さんげ

くどくりきわれ

すく

しやうじやう

懺悔の功德力我を拯いて清浄ならしむ、

このくどくよ

むげ

じやうしんしやうじん

しやうちやう

此功德能く無礙の淨信精進を生長せし

じやうしんいちげん

じ た おなじ

むるなり。淨信一現するとき、自他同く

てん

そのりやくあまね

じやうひじやう

こう

転ぜらるるなり、其利益普く情非情に蒙

そのだいし

ねが

わ

たと

ぶらしむ。其大旨は、願わくは我れ設い

過去かこの悪業あくごう多く重なりおおて障道しょうどうの因縁いんねんあり

とも、仏道ぶつどうに因りよて得道とくどうせりし諸仏しよぶつ諸祖しよそ

我れわれを愍あわれみて業累ごうらいを解脱げだつせしめ、学道がくどう障

り無なからしめ、其功德そのくどく法門ほうもん普あまねく無尽むじん

法界ほっかいに充満じゅうまん弥綸みりんせらん、哀あわれみを我われに分布ぶんぶ

すべし、仏祖ぶつその往昔おうしやくは吾等われらなり、吾等われらが

当来とうらいは仏祖ぶつそならん。我が昔しやくしよ所造ぞうしよ諸悪業あくごう、

皆かい由無始ゆうむし貪瞋癡とんじんち、従身じゅうしん口意くいき之所生しよしよ、

一切いっさい我今がこん皆懺悔かいぜんげ、是かくの如ごとく懺悔せんげすれば

必かならず仏祖ぶつその冥助みようじよあるなり、心念しんねん身儀しんぎ

発露ほつろ白びやく仏ぶつすべし、発露ほつろの力罪根ちからざいこんをして

銷殞しやういんせしむるなり。

年 月 日

氏名

謹写